

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム白鳥台 すずらんユニット	評価実施年月日	平成21年11月25日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月26日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	1、個人の尊重:生活習慣や大切にしてきたことを尊重して自分らしく過ごしていただきます。2、いきがいの成就:趣味やお好きなイベントと一緒に企画楽しんでいただきます。3、ご家族・地域交流づくり:ご家族、地域の方と交流やふれあいを大切にします。以上、上記理念で安定した生活を営むことが出来るように努めています。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	入職時のオリエンテーションに説明を行ない、理解を得るように努力をしています。ホーム内に理念を掲示し、各自に理念シートを作成し個々の意識向上に努めている	○	その人らしい生活の継続を目標に日常ケアの中で理念を意識し職務を遂行できるようにつとめたい
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居、契約時に説明を行っている。玄関ホールに理念を掲示し面会時に確認をしていただいている。またケアの一環で利用者様と外に出た折、商店の方や地域の方への認知症の方の優しさ等も伝える努力をしている。また、2ヶ月に1回はグループホーム通信にて近況をお知らせしている。	○	開所し1年が経過したので運営推進会議においても、地域包括支援センターの方や地域の方の参加をお願いする。また、ボランティアの方の協力等で外部との交流も深めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者様との散歩等の外出時に気軽に挨拶をし、声を掛け合いホームを知って頂く努力をしている。地域の小学校の行事への参加も行っている	○	地域の小学校や幼稚園との交流や地域の老人会の方等が気軽に立ち取れるような機会を増やしたい
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	平成20年7月の開所式に地域の町内会長や老人会の方の参加をお願いしました。開所後は入居者様が日頃のレク活動で作成した手縫いの雑巾を小学校に寄贈したり、学芸会への招待をうけ訪問を行ない、地域の方々に認知症の理解を深めていただく努力を行っている	○	地域のお祭りやイベントに参加する機会を多くし、地域とのかかわりを積極的に実施できるように検討していきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	電話、訪問での高齢者福祉制度、介護保険についての相談に応じている。また、ホームへの見学に来られた方々には、気軽にホーム内を見学して頂き、質問をお受けするなど認知症についての理解を深めるよう努めている。また、スタッフも支援に役立つご意見については耳を傾け、ケアに反映できるようにしている。	○	認知症理解のためのサポーター講座や利用者様との交流できる取り組みをしていきたい。また、他の老人ホーム、地域のサークル活動をされている方との交流も取り入れたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価についての意義を全スタッフが理解できるように努め、ユニット内で判断した根拠や改善点を話し合い、ケアに反映できるようにしている	○	自己評価の内容をもとに職員全体でケアについて工夫できるようにしていきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	入居、退去状況、利用者様のホームでの様子、サービス内容(食事、個別ケア等)、事故報告、研修内容等を報告し、ご家族の要望等で率直な意見を頂きサービスの質を高められるように努めている	○	開所より1年経過しご家族だけではなく、地域の方、地域包括支援センターとの参加協力をお願いし、地域、外部との交流をいたしたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	室蘭市GH連絡会の席にて市の職員と情報交換を行っています。また、申請手続きや運営についての打ち合わせが必要な時はこちらから出向いています。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員の権利擁護事業、成年後見制度についての研修参加を推奨しています。利用者様個々人の必要性がある場合や相談がある場合の対応できるようにしています。	○	地域包括支援センターにご協力を頂き、権利擁護事業、成年後見制度等の研修会を開催していきたい
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止法の研修会は虐待事例をもとに行ない、職員行動規範等に照らし合わせ職員同士が互いに注意をはらい、虐待が存在しないことを確認すると共に、言葉による虐待、ケアによる虐待防止に向け、話し合いをしている。スタッフひとりひとりがプロ意識を持ち、長い人生の先輩である入居者様に対しては、尊敬の気持ちで接し、温かな気持ちで自然に声かけ接するようにしている	○	繰り返し虐待とはどういうものかを整理できるように研修を継続していく。また職員の精神不良、ストレス、体調不良等から虐待が起きないように健康管理にも気を配りたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書、重要事項の説明を丁寧に行ない、疑問点についてもわかりやすく理解を得るようにしている。入居者の基本情報、ご本人、ご家族の意向も、居宅で担当しているケアマネジャーの協力を得て、理解できる表現で説明をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活での会話や行動、表情から一人ひとりの「こうしてほしい」との思いや不満、希望などを汲み取るようにしている。利用者の思いを外部に表す機会は少ないが、ご家族が面会に来られた時は、居室で家族と利用者様がゆっくり話す環境をつくり、利用者様の思いをご家族から気兼ねなく話ができる環境づくりをしている		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回はグループホーム通信としてホームでの暮らしぶりや健康状態等を報告している。また、入居者様の状況に応じ、その都度、電話や面会時に連絡、報告をしている。預かり金での日用品の購入について詳細に報告を行ない、ご家族の意見、了承を得てから購入を行っている	○	面会の少ないご家族様には、電話でご本人とお話をしたり、スタッフより近況をお話したりしていきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時は管理者や担当スタッフにお話できる機会を作っている。また、外部の苦情受付窓口のお知らせしている。気軽に苦情ご意見を頂く為に、玄関ホールにはがきを設置している。ホーム内の窓口に相談があった場合は迅速に対応し利用者様、ご家族様へ不都合が生じないように職員間で話し合いをしている。年に1回は利用者アンケートを実施し意見を伺っている		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り、会議やミーティングで出された意見、提案を試みたり、実施して評価を行い利用者により良いサービスを提供できるように工夫をしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務表を作成し入居者、職員の状態により調整をしている。突発的な状況、行事によるスタッフの確保等においても、管理者、スタッフ間での調整がスムーズに行うことが可能でいかなる場合でも対応は常にできる状態にしている。10月より調理担当職員も雇用し介護職員がケアに専念できるようにしている		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間のコミュニケーションを図っており、スタッフの移動が必要な場合にも混乱しないように心配りを行ない、いつでも行き来できる状況を作っているが職員も重要な環境の一部と考え、必要最小限としている。やむを得ず離職した場合も混乱がおきないように対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設長、管理者は職員の向上意欲に応じて、市内行政、広域連絡会等の研修、認知症研修センター主催等の研修やスキルアップを推奨している。また、同法人の併設している病院の研修会への参加や入居者様の個別の対応を連携して行っている	○	認知症理解の向上を目指して外部研修の参加、研鑽。法人内専門職を交えてのチームケアの実施を継続して行っていきたい
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	職員には、グループワークの研修や広域連絡会等の研修、交流会への参加を進め、職員独自のネットワークづくり、自主性を高めています。また、法人内で10月から事業を開始した地域密着型ケアハウスと合同での研修会や行事の交流を図っている	○	今後も同法人内のケアハウスとの交流、連携を図っていきたい
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	勤務時間内に休憩を必ずとり気分をリフレッシュしたり、管理者に日頃の悩みや不安を相談し助言を求めストレスの軽減の為の手段としている。	○	ユニット内で親睦を図る手段を工夫していきたい
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	採用時はオリエンテーションを実施し、経験者には行動チェック表を活用して会得を確認している。職員同士がお互いを高め合い、協力しながら向上心を持って仕事している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご本人からの相談は心身の状況を合わせて対応させて頂いております。担当ケアマネジャーとの調整については相談の段階から一緒にかかわり親近感をもっていただくようにしています。施設の見学も早い時期に行ったり、体験入居を実施し納得していただくようにしている。ご本人の不安、要望、ご家族の意見もスタッフ全体で受け止め解消できるように努力をしている		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の一番大変だと思っていることの把握の為、ゆっくり話しをするようにしている。混乱されているケースも多いので、入居の必要性がご本人とズレがないか整理するようにしている。医療面での相談については主治医を交え相談している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談があり対応している際は、一番困っていることは何なのかを分析して、在宅サービスの導入、変更で対応できないかを一緒に検討している。入居の希望がある場合はホームでの生活している様子を見て頂き、入居者様の生活状況と役割などを個人情報保護に配慮しながら出来るかぎりお知らせをしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設内の見学や体験入居をされてから判断して頂いている。できるだけご本人が入居に納得され、入居されてから不快な気分をもたないように配慮している。居宅担当のケアマネジャーへの連絡を親密にとるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人の出来ることを引き出しつつ、強制せずに、食事の後片付け、シーツ交換、掃除などもスタッフと一緒にこなす事で、一緒に生活をしているという環境づくりで人生の先輩として教えていただく等、支えあう関係を築いている。居室へは家で使っていたものなどを置いたり、身に付けていたりしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の愛情、思いをしっかり受け止め、日常生活での変化に気を配り、連絡を密にして情報の理解、共有に努めている。スタッフの対応だけでは、不安が解消せず精神的な不安定な時には、ご家族に電話をしたり、面会をお願いしたりご家族と共に支える関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	主に面会時にご家族との関係が築かれるように努めています。ご家族が来て頂いた入居者様の喜びを伝え、イベントへの出席をお願いしたり、外出、外泊を自由にして頂きより良い関係を築いて頂くように支援をしている		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近所の方のご面会や遠方に住まれているご親戚からのお手紙等を頂くようにご家族にお願いしている。面会にいらした馴染みの方からの昔の話などで、懐かしそうに目を細め会話されている姿を大切に、再び面会にきていただけるような雰囲気をつくり情報を頂きケアに生かすようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同志の人間関係は細かい会話や表情から観察するようにしており、テーブルに座る位置なども工夫している。会話の中にスタッフが介入する事で入居者様同志の連帯感も働き、入居者様同士が声をかけ合ったり、手助けする場面も見受けられる。不穏な状況がある時は、スタッフが介入し納得して頂けるように努めている。	○	日常生活の中でスタッフがゆっくり関わる時間を多くつくってきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	やむを得ず退去となった方には、医療機関への面会をし元気になれるようにお手伝いをしています。ご家族にはホームでのお写真を渡し、近くに来られた時は気軽に訪問していただくように声をかけています。退去時にはホームへの思い出としてアルバムを作成しお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人のお持ちの感性を受け入れ理解する努力をしています。入居者様の人格や特性も考慮しケアに当たっている。スタッフ間の連携については連絡ノート、介護記録等に記載し、情報を共有している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴を通じて日々その方の人生を知り、その人らしい生活を継続できるように生活状況や心身の状況に合わせて趣味活動や習慣に合わせて工夫している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録や申し送りや身体、精神状況の伝達をし身体的に無理のない過ごし方ができるようにしています。入居者様の日々の暮らしに違いはあっても会話や表情からそれぞれの生活状況を観察しスタッフ間でも情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者様一人一人に担当のスタッフが付き、利用者様の生活状況の把握、ご家族との連絡を行っている。日常生活の中で、何をしてほしいのかを汲み取り、利用者様ご家族の希望、意見を盛り込んでいる。計画の見直しの際にはスタッフ全員で検討をし、医療面から看護師の意見も取り入れたケアプランになるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	身体状況等の変化で見直しが必要となった場合にカンファレンスを開催して新たな計画を作成している。また日々の入居者様の心身の状況を把握し、変化に応じて、申し送りなどで管理者、スタッフ間での意見交換しより良いケアの提供の見直しを図っている		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日中、夜間共に介護記録への記載漏れ、スタッフ間での伝言漏れ、伝言等の間違いがないようにスタッフ間で互いに注意し、介護計画の見直しを円滑にできるように努めている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居以前からなじみの美容院へ出かけたり、ホームへ訪問理容院を利用したり、ご家族と共に外出され食事へ行かれたり、外泊等の自由にできるように対応をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティアの方に、大正琴の演奏お願いし楽しみの場面を作っている。利用者様が不穏となってしまう、落ち着かれるまでスタッフが伴って近所を散策することがあります。その際、利用者様が交番に飛び込んだりされた時に、警察官の方が利用者様の話を聞いてくださったりしたエピソードがある。	○	隣が消防団ある為、防火の勉強会の開催をお願いいただく等、地域の方、ボランティアの協力を今後は得ていきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	保険適応外のサービス利用の希望がありません	○	保険外サービスの情報を収集し、必要時は利用の検討を行ってきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護等についてもご家族が対応してくださっているケースが多いので包括支援センターとのかかわりは少なかった。	○	運営推進会議の参加、認知症理解の地域研修の計画等で連携を図りたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者、ご家族の希望で主治医を決定している。ご本人の希望により、同法人の医師に受診することも多くなっているが、他科の場合は専門医を受診している。協力病院として母体の病院と連携し、夜間帯、緊急時にはホーム内の連絡網を活用し、ホームの看護師より、母体の病院への連絡し、病院長、当直医の指示を受けられるようにシステムを作っている。歯科診療についても協力医の支援を受けている		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人内の医師に相談し、必要時には専門的診断を受ける為の受診調整を行ない、入居者様が安定した生活を送ることができるように配慮している		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	非常勤の看護師を配置しており健康管理を行っている。入居者の健康状態の変化があっても、24時間の連絡体制を整えている。また、日常のバイタルサインの変化を看護師へ相談している。母体の病院の看護師等への相談や専門職との連携を図っている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関の医療相談員と連携を図り、退院可能なレベルを早い時期から調整しホーム内での受け入れ体制を整えるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居の際、利用者様、ご家族のご希望を伺い、健康管理及び看取り介護の指針の同意を頂き継続した健康管理をしていく中で終末期のあり方をご家族と相談しています。	○	協力医師と相談して看取りを踏まえたケアに取り組んでいきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホームでの生活を可能な限り、送っていただきたいと考えており、主治医、看護師、介護職の間で、ご家族のご意向に出来るだけ沿うことができるようにしている。緊急時の主治医との連絡を速やかにとれるような体制をとり、ご家族ともに終末期の身体的苦痛や不安、恐怖心の軽減を重点に置きケアできるように準備しています	○	入居されている方に身体状況に合わせて協力医と相談していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居が決定した時点でご本人が自宅からグループホームへ住み替えするという環境の変化を十分配慮し、話し合いを重ね住み替えによるダメージを防ぐ事に努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者の尊厳を守るよう声かけを行っている。個人情報保護については入所時、説明と誓約をしている。慣れ親しんだ方への言葉使いであっても尊敬の念を忘れないように配慮している。記録は事実を正確に書き留めるよう心がけている</p>	○	<p>個人記録がその日に行った行為、客観的に事実のみの記載となっている事が多いので、今後は利用者が話をしたこと、興味をもった事を記載できるように工夫したい</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>認知症による日々の変化や能力に合わせて入居者様が希望することを自ら表現しやすい環境をつくり、身体状況等を表現できない方については、こちらからお声かけをして、その反応から感じ取るように努力している</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>できることは自分でしていただく事以外は、自由に過ごすことができるように配慮している。個々の身体・精神状況を観察し、日々、起床、食事、就寝、入浴等を支援している</p>	○	<p>認知症の進行により強い入浴拒否が合った場合や意欲低下による傾眠症状があるが、生活のリズムをつくるために、こちらの判断で促してしまうことがあり、興味の持つものを工夫し納得して頂けるように工夫する必要がある</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者様によってご家族がお連れになる方、美容室の方が迎えにこられたり、ホームで散髪ができるように対応している。洋服も出来るだけT・P・Oに合わせたおしゃれをして頂くようにしている。入居者様の好みも考慮したり、自分で選択してきていただくようにしている。リビングに鏡があり、時々、ヘアスタイルなど確認をされている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者様の精神状況、タイミングに合わせて野菜の皮むき等、食材の下ごしらえ、テーブル拭き、食器拭き、盛り付け、後片付けを手伝って頂いている。飲食物の形状は個別に身体機能に合わせているので一律ではない。献立は管理栄養士に作成を依頼している。食事時間は、ゆっくり話をしながら摂取できるようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	女性が多くお酒、たばこ等は好まないですか、おやつはこちらで用意をして選択していただいたり季節のものを入れたり工夫をしている。お誕生日にはお好きな希望されるメニューにしたり、職員の手作りのケーキを提供するなど、楽しい食事会を行うようにしている。又、医療的に問題がない方には、ご家族が好みの嗜好品を持参され一緒に飲食される。お部屋に置かれているものは、その賞味期限にスタッフが注意を払って対処している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者の状況、排泄パターンに合わせて、トイレ誘導、失禁の対応を速やかに介助、支援をしている。排泄の失敗により入居者が落ち込んでいるときは、温かな声かけをさりげなく行っている。気持ちよくトイレを使って頂くように、毎日トイレ掃除を実施しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	生活習慣から日中入浴される。開所に夜間入浴を実施したが、生活リズムが安定しない状況があった。入浴時間はご本人の好みに合わせ、入浴剤を入れたり、介助中、話をしながらゆっくり過ごし、入浴したいと話されると身体状況に合わせて、入浴できるようにしている	○	入居者様のペースや生活パターンに合わせた入浴ができるように努めているが、職員の都合による場合があり今後検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間は個々の入居者様の自由になっていますが、安眠を得られるように昼間はラジオ体操を行ったり、お掃除を手伝っていただいたり適度な運動を行なっている。就寝前には部屋を暖めて加湿するなどしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様の出来ること、好きな事を探し張り合いや喜びの持てる日々を過ごせるように工夫している。縫い物をしたり、包丁を持って食材を切ってもらったり、花壇の草取りや花への水やりなどをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には施設でお預かりしているが、少額は管理できる方もおられ本人、ご家族の意向に沿った形で支援をしています。行事の時にはアイスクリームを食べたり、好きなものを買ったりできるようにしています	○	外出の際など、買い物ができる機会をつくっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	お天気の良いときは散歩の声かけをして、無理なく歩ける距離の散歩、ドライブにお誘いし、気分転換ができるように支援をしている		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節のレクとしてドライブなど、普段行けない所に出かけたり、ホームの買い物と一緒に行って頂くなど、身体状況を判断し行っている。ご家族との外出・外泊は制限なく自由にして頂いている		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族に連絡したいと言われた時には、ホームの電話を使用し連絡をつけている。ご家族から手紙なども自由にやりとりができるように支援をしている		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は朝から21時まで面会ができるように対応をしている。訪問時は温かくお迎えし自由に過ごすして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	該当ケースはないが、ケース事例の検討や研修を実施している		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者様が自室、トイレの鍵をかけておられる場合は、その行為を尊重し、こちらから玄関等の施錠をすることはない。玄関の自動ドアはボタンを押さないと開閉しないようには工夫している。玄関は21時以降は防犯上は施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室のすりガラスがあり、必要時はノックをしてプライバシーにも心配り、さりげなく見守るようにしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者様の安全を第一に考え、危険であると判断した場合は、ご本人、ご家族の了解を得ながら配置場所を変えたり、ホームで預かるといった対応をしている。台所にある刃物に関しては夜間のみ、鍵のついたところに保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書はもちろんのこと、ヒヤリハット報告書を作成し、事故防止の為に取り組みをしている。転落防止の為に、ご家族の同意のもとバルコニーの窓は15cmのみ開くように造作をしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	開所時には、病院本体の看護師との連絡、緊急時の対応の研修を行ない、開所後はサービスマニュアル(緊急時、応急処置)を作成し、資料勉強会、研修を行ない適切な対応ができるように準備している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時マニュアルを作成し、法人内で連絡体制を整備している。入居者の方を安全に避難できるように避難訓練を実施している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者様の身体状況から転倒、骨折のリスクがない様にスタッフが付きそうようにしている。感染防止の為に、うがい、手洗いを声かけしながらスタッフも含めて一緒に実施し抑圧感のないように工夫している。糖尿病の食事療法等も他の利用者様と差別感が起きない配慮をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p> <p>毎朝、バイタルチェックを行ない、体調の変化については看護師と相談し、受診が必要な場合は協力医療機関へ受診するようにしている。情報の共有については、介護記録を利用している。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p> <p>看護師が服薬のセットを行ない、服用されている薬の内容はファイルをつくりいつでも確認できるようにしている。糖尿病薬や利尿剤服用の方などは症状の変化に注意するように看護師より介護員に指導している</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p> <p>水分補給の充実、乳製品の摂取や食事に関して野菜を豊富に使用している。また、排便の状況を記録し、観察をしている。毎日ラジオ体操を行うなど適度に運動をしたり体を動かしたりしている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p> <p>肺炎の予防になる為、口腔ケアは食後に状態に合わせて実施している。また、外出より帰所した時は、うがい、手洗いを励行している。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p> <p>同法人内の管理栄養士の立てた献立によりバランスを考えている。水分量は午前、午後で確認し1日1000ml以上を摂取するようにしている。また手作りのゼリーをつくったり工夫している</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)</p> <p>感染症予防に関する研修会を行ない、知識を高めている。排泄後、食事前、外出後の手洗い、うがいを促し利用者、スタッフとも励行している。排泄介助等はグローブを着用し感染防止には日々努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材、食器等に触れる時には、手洗いをしている。配達された食材は安全に保存し、使いきるようにしている。夕食後は、シンク内の消毒を行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには花を植え、玄関には椅子を用意して靴の脱ぎ履きができるようにしています。スロープの設置し、車椅子での移動もスムーズにできている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の場所は清潔にし、壁には植物の写真などで温かさを感じられるようにしている。日差しのきつい日はレースカーテンを使用するが、窓からの景色を感じていただけるようにカーテンの開け閉めを何度も行っている。	○	季節感を感じさせる植木やタペストリーなど装飾も工夫したい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングには一人一人の食事の席があり、楽しく食事が出来るようにしている。リビング裏の廊下に一人がけの椅子を設置し廊下を散歩し休むスペースがある。落ち着いた時は、和室で一人になる場所もあります。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際に、身の回りにあるなじみの家具、食器などを持参して頂き自宅で過ごしていた心地よさをつくることができるように工夫をしている。また、ご家族が宿泊できる和室を設置しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気設備とし、温度計、湿度計を各ユニットに設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室に手すりを設置しており、入居者様の身体状況に合わせてエレベーターも設置している		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ、浴室、各居室前に表示板を設置している。居室内の衣装ケース等には品名を貼り、衣類の出し入れが自立してできるように配慮している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの敷地内は広い駐車場も完備しておりレクの場として活用し、ベンチ、椅子等をならべ、夏には手作りの金魚すくいを行ったり、お茶を飲んだり、花壇の整備等もケアとして実施できている	○	近所の方も気軽により入居者様と話しができる機会を多くしたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

ホーム開設より1年が経過し穏やかに生活していただいている。入居者様一人一人の個性を尊重し自宅での暮らしの自由さを出来るだけ損なわず孤独感や不安のないように安心した生活が提供できるようにし、今後はもっと外に出る機会を増やしていきたい。気軽に買い物などに行き楽しみを見つけられたり、時にはわがままや愚痴も遠慮なくスタッフに話ができるような家庭的な生活空間をつくる努力をしていきたい。